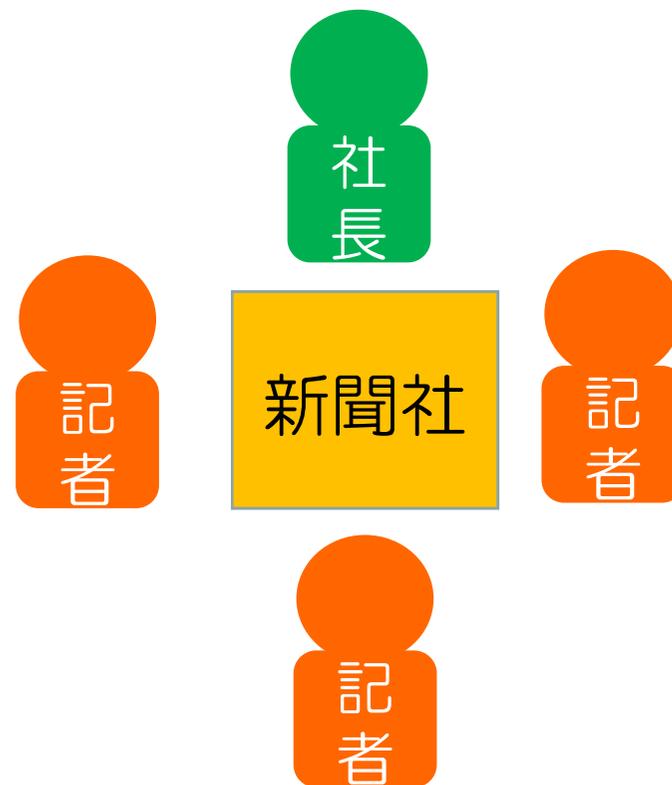
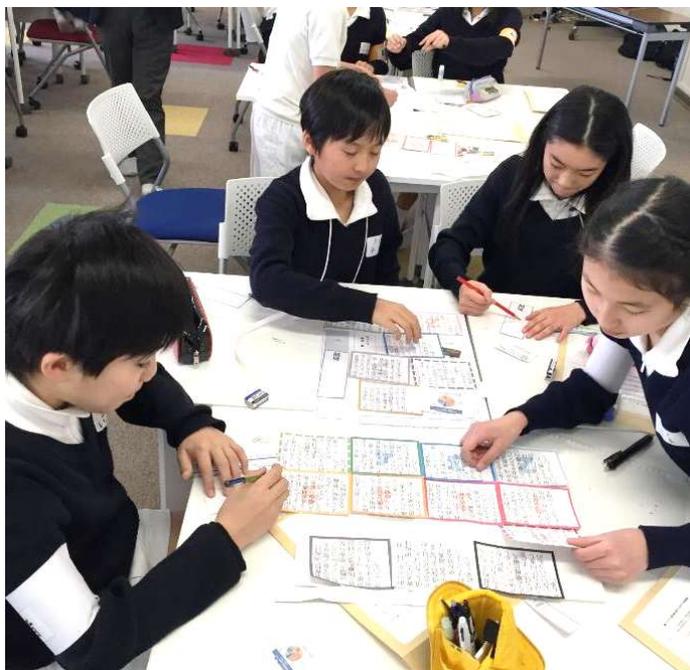


ど・あっぷ！のワークショップ

1. 新聞記者になって新聞を作ってみよう！↑Do Up! of Citizenship

【ワークショップ内容】

- 各班（4人）毎に新聞社として、社長（1人）、記者（3人）の役割を決めて、オリジナルの新聞を作ってもらいます。

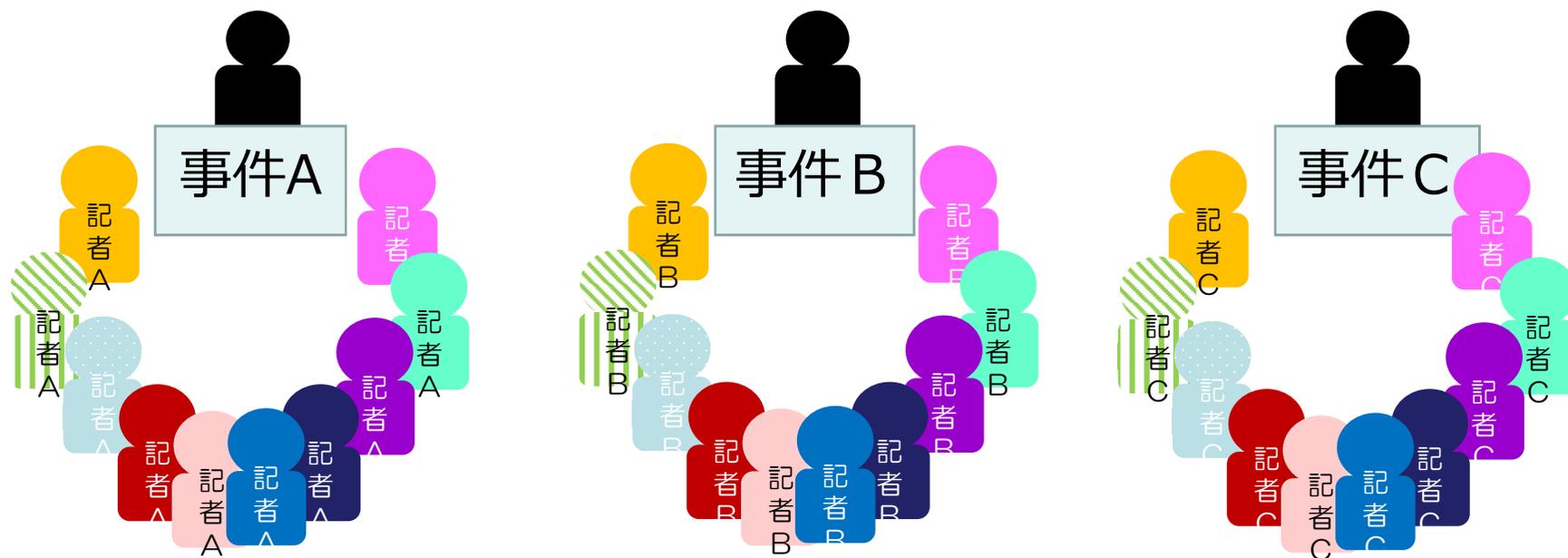


ど・あっぷ！のワークショップ

1. 新聞記者になって新聞を作ってみよう！↑Do Up! of Citizenship

<取材>

まず、事件A、B、Cのところに記者が取材に行きます。
事件内容を取材して、記事用シート（6枚）、写真（1枚）を会社に持ち帰る。

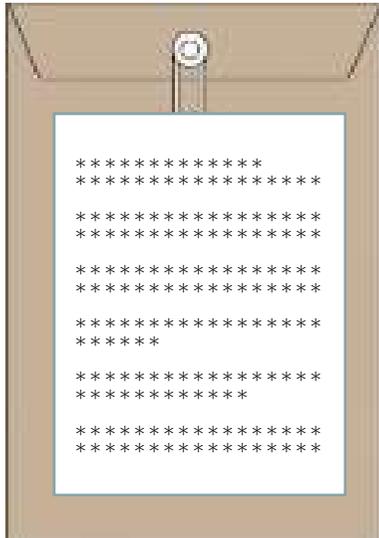


ど・あっぷ！のワークショップ

1. 新聞記者になって新聞を作ってみよう！↑Do Up! of Citizenship

記事例

「豊作—
米・キャベツ」



今年は晴天の日数、降雨量のバランスがよく、天気が安定していた。そのため、お米やキャベツをはじめとした農作物の収穫量が例年を大幅に上回った。

主食である「米」の豊作は、消費者にも恩恵をもたらしている。東京都内のあるスーパーでは、お米の売れ行きが例年を大幅に上回っているという。

街での消費者へのインタビューでは、「農作物の値段が安くなって買いやすく、家計にも助かる」といった、豊作に対するプラスの意見がたくさん出た。

豊作は、農家にとってみれば嬉しくもあり痛手だ。ある農家では、お米は豊作でも、値段が下がっているので出荷量は多いが、収入は例年とほぼ変わらないそうだ

関東地方をはじめとしたキャベツ農家では、出荷量を大幅に超えてしまった収穫のため、品質が良くても、キャベツを大量に廃棄する例が多く出ている

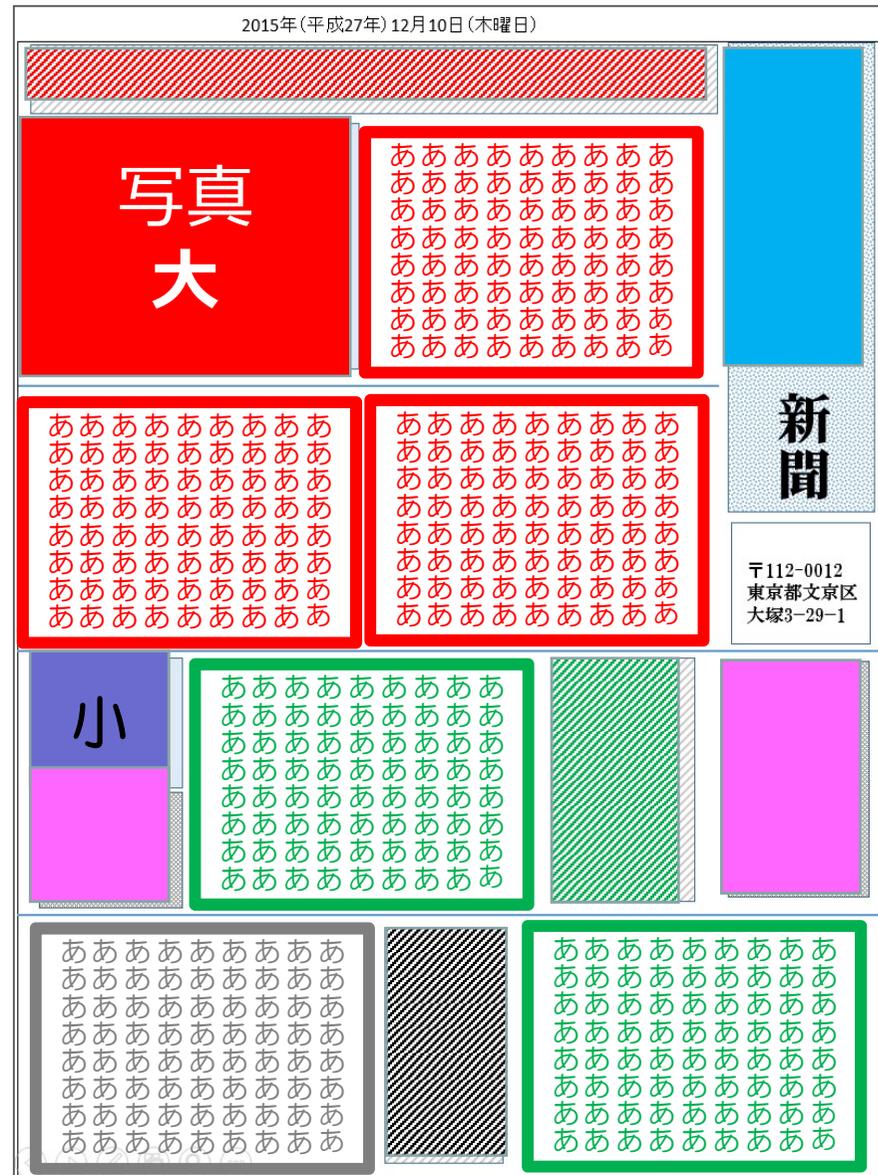
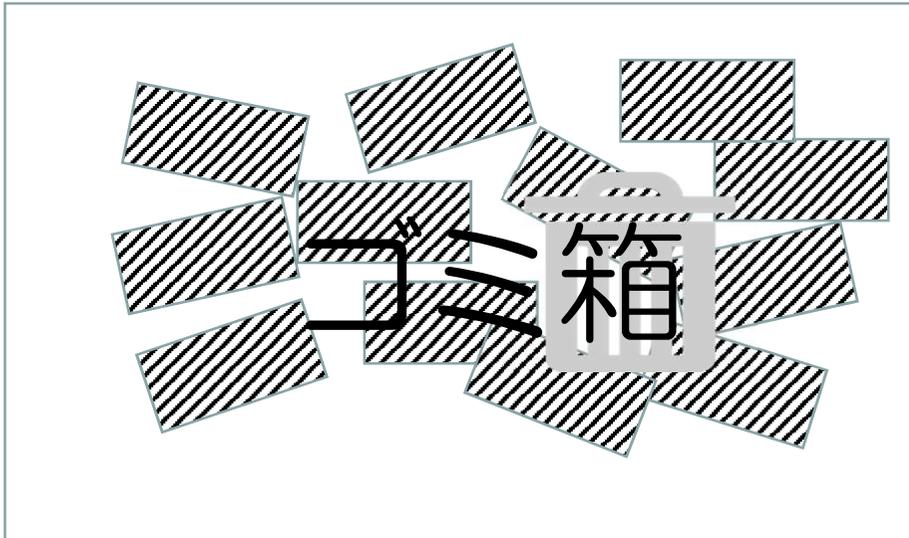
豊作は、農家にとってみれば痛手となるようだ。「たくさん採れたのに、それだけ値段が下がってしまう…これでは生活できないよ」と農家はなげく。

ど・あっぷ！のワークショップ

1. 新聞記者になって新聞を作ってみよう！ ↑ Do Up! of Citizenship

＜編集会議と新聞作成＞

- 記者が会社に戻り、社長も含め編集会議を開催します。
- トップ記事、中段、下段の記事をどれにするか？記事用シート、写真をどれを掲載するかを決定。
- 使わなかった残りの記事用シートはゴミ箱へ。



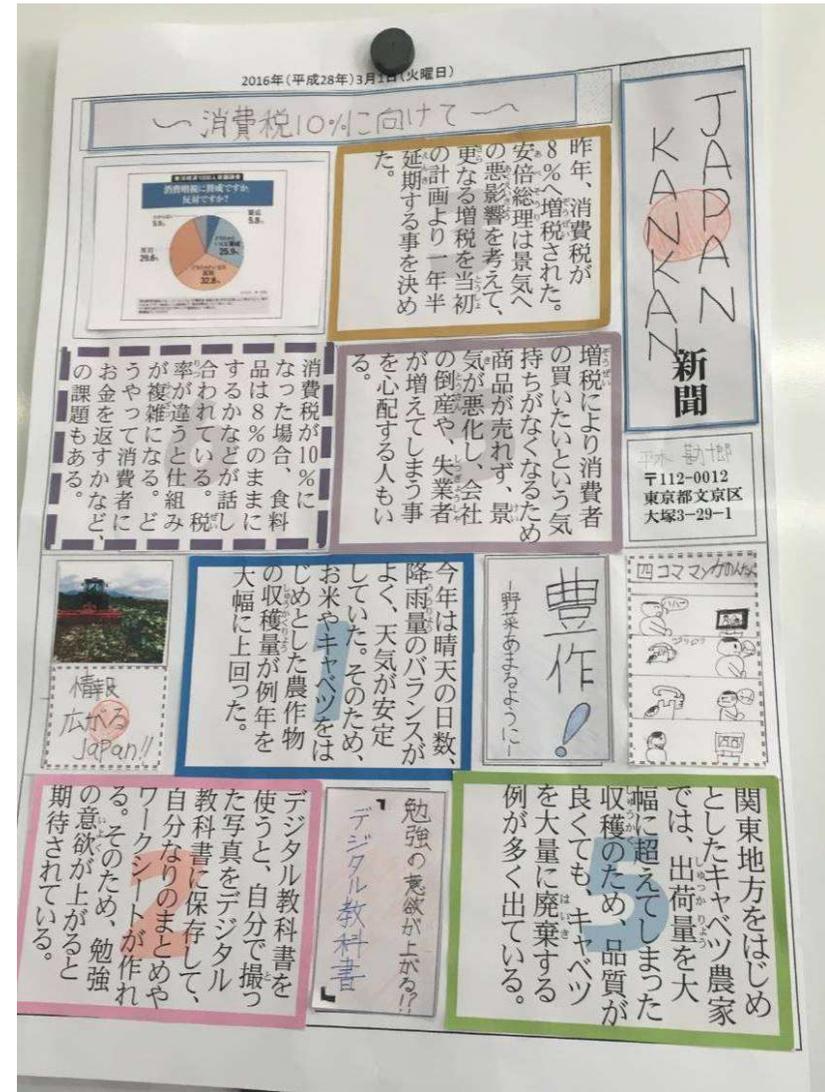
ど・あっぷ！のワークショップ

1. 新聞記者になって新聞を作ってみよう！↑Do Up! of citizenship

<新聞PRタイム>

- 各新聞社の社長さんが自社の新聞をPRし、読者代表者数名にどの新聞を購入したいかを言ってもらおう。

【読者代表（主婦）】



ど・あっぷ！のワークショップ

1. 新聞記者になって新聞を作ってみよう！↑Do Up! of Citizenship

<解説とねらい>

- 同じ事件の取材をして作られた新聞が新聞社によって**内容が違う**。

なぜなら、

- **制約**がある・・・時間、スペースetc。
- **選択**される・・・新聞社、記者の主観で、内容、大きさが**選ばれる**。

体感
する

捨てられた記事

= 伝えられなかった
多くの事実が存在する

認識
する

- メディアとは多くの事実の**一部**しか伝えられない
伝えられなかった事実がある
- スポットライトの当たらない多くの事実の存在を
意識することが大事

【ゴミ箱】

